

京菓子って？

京菓子は平安期の朝廷の礼式、故実に基づいた年中行事のお菓子である有職菓子をベースに、江戸期の茶の湯の隆盛により茶席菓子としても発展してきました。厳選された材料、職人の繊細な手技、そしてほんの少しの道具

だけで作られる京菓子はまるでアート作品のよう。四季の繊細な色の移り変わり、ぎりぎりまで抽象化されたかたち、銘から広がる無限のイメージ……小さな京菓子は美意識の結晶です。

事前説明会&京菓子づくり体験会

京菓子ってどのように作られているの？ 京菓子と蕪村・若冲の関係って？ 素朴な疑問を分かりやすく説明します。レクチャーのあとは実際に「こなし」という素材で京菓子を作ってみます。アイデアのヒントにしてください！

日程：2016年7月21日(木)／8月7日(日)
時間：14:00～15:30
会場：有斐斎弘道館
参加費：2,000円(材料費込み)

京菓子専門講座

有斐斎弘道館で継続的に開講している講座です。もっと深く京菓子を知りたい。応募に向けて本格的に学びたい、という方にぴったりです。講座の前半では本公募に連動したカリキュラムを開催します。

日程：2017年7月18日(火)／8月29日(火)／9月19日(火)／
10月17日(火)／11月21日(火)／12月19日(火)
時間：15:00～16:30
会場：有斐斎弘道館 参加費：30,000円(材料費込み)



公益財団法人 有斐斎弘道館

有斐斎弘道館は、江戸時代を代表する儒者・皆川淇園(みながわきえん／1734～1807)の学問所「弘道館」址に建つ文化的建造物を保存しながら、江戸時代の教養文化を楽しみながら考え、広めていくための活動を行っています。公募展を通して、当時の文化サロンの豊かなネットワークに思いを馳せることができましたら幸いです。

講座・イベントのお申込みは、有斐斎弘道館まで
(TEL: 075-441-6662 / E-mail: kouza@kodo-kan.com)
※事前説明会&京菓子づくり体験会及び京菓子専門講座の参加の有無は審査には関係ありません。

「手のひらの自然—蕪村と若冲」展 2016

江戸時代を代表する芸術家である与謝蕪村と伊藤若冲の生誕300年にちなみ、彼らの絵画・俳句をテーマに新たな京菓子デザインを幅広く公募し、高校生を含む約373人の応募のなかから選ばれた入選作品37点を、有斐斎弘道館及び二条城に展示しました。蕪村と若冲の意匠に挑む意欲的な作品群に、京文化の奥深さを来場者に実感していただく機会となりました。



茶席菓子実作部門 大賞

『百花の王』
作：幾世橋 陽子
参考：伊藤若冲
「動植綵絵 老松孔雀図」



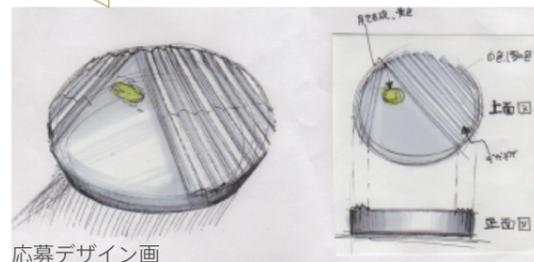
京菓子デザイン部門 大賞

『雪月景色』
デザイン：黄 慶浩
参考：与謝蕪村
「王子猷訪戴安道図」



有斐斎弘道館 展示風景

京菓子デザイン部門の入選デザイン画は
菓子職人が実作し、展示いたします



応募デザイン画

詳しくはこちら

<http://kodo-kan.com/kyogashi/>

京菓子展 「手のひらの自然—小倉百人一首」2017

京菓子デザイン公募

入選作品は、京菓子展「手のひらの自然—小倉百人一首」2017に展示

食べる場や人にあわせて、一つひとつ、意匠がつむぎ出される京菓子。テーマや情景を、小さな菓子の世界につくりあげる際、和歌は大きな役割を果たしてきました。小倉百人一首は、平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活躍した公家・藤原定家が選んだとされる、100人の歌人の歌です。皆川淇園の学問所ができた江戸時代には、絵入りの歌かるたとして広く庶民にも広まりました。小倉百人一首をテーマに、京菓子の意匠を考えてみませんか。創造力に満ちたデザインを募集いたします。

京菓子展「手のひらの自然—小倉百人一首」2017

会場：有斐斎弘道館 特別会場：旧三井家下鴨別邸 会期：2017年10月21日(土)～11月5日(日)
主催：公益財団法人 有斐斎弘道館、京都市文化財公開施設運営管理事業受託コンソーシアム
共催：京都市、公益社団法人 京都市観光協会、古典の日推進委員会 後援：京都府

あらし 吹く 三室の
やま の もみぢ葉は
たつ た の
に し き
錦 な り け り



歌：能因法師
菓子：太田宗達

